

## 幸福度指標をめぐる新たな展開

—人口減少社会および地方創生との関わりを視野に—

千葉大学法政経学部教授 ● 広井 良典

地域活性化センターでは、地方創生の担い手となる人材の養成を目的としたワークショップ「地方創生実践塾」を実施している。7月23日(木)及び24日(金)に東京都荒川区で開催された今年度第2回実践塾の内容について、主任講師の広井良典氏にご報告いただいた。(地域支援課)

### 今回の実践塾の趣旨

今回の地方創生実践塾は、「荒川区民総幸福度(GAH)」の取り組み—「指標化」と「地域力」—をテーマとするものである。

近年になって「幸福」というテーマに関する関心が国内外にわたり高まっている。国際的には、ブータンのいわゆる「国民総幸福量(GNH)」の取り組みが注目され、またこれに限らずGDPでは測れない豊かさやGDPに代わる「豊かさ」指標に関する試みが研究レベル・政策レベルを含めて活発化している。

他方、国内に目を向けると、いくつかの自治体が幸福度指標策定に取り組むようになったのはここ数年の

ことであり、そのもつとも先駆的な

例が東京都荒川区の試みで(同区が

荒川区民総幸福度(GAH)の導入を提唱したのは2005年で、同指

標に関する研究を行う荒川区自治総合研究所の発足は2009年)、ま

た熊本県が「県民幸福量の最大化」の考え方を掲げた「くまもとの夢4

カ年戦略」は2008年を起点とするものだった。

視点を改めてみれば、こうした「地域の幸福」に関する取り組みは、昨

今盛んな「人口減少」問題とも深く関わっている。たとえば昨年出され

たいいわゆる増田レポートは、マクロの人口減少や東京への一極集中がも

たらす危機に警鐘を鳴らすという意味では大きな意味をもった半面、全

体として、人口という「量」の側面に関心が集中しており、また、地域の「豊かさ」の意味そのものについて、依然として経済の拡大・成長や効率性を基本におく従来型の発想にとらわれているのではないかという疑問も生じる内容となっている。

こうした意味では、そもそも「地域の豊かさ」とは何かを根本から問いなおし、「幸福」という視点を地域の豊かさの柱にすえる幸福度指標の「思想」は、昨今のその種の人口減少論に対する一種の「アンチ・テーゼ」としての意義をも担うことになると思われる。

### 講義・パネルディスカッション・グループワーク(1日目)：幸福度指標策定に関する具体的な方法論など議論

実践塾の初日においては、西川太郎・荒川区長の開講の挨拶に続き、まず主任講師の広井より、「幸福度指標と地方創生—人口減少社会を希望に」と題する講義(講義①)を行った。ここではたとえば、「幸福は個人

によって多様であり、行政(自治体)がそれに介入するのは妥当ではなく、行政の役割はむしろ不幸を減らすことにあるのではないか」といった基本的な疑問についてどう考えるかといった話題が取り上げられた。

続くパネルディスカッションは、GAHを提唱し推進してきた西川区

長と、地域活性化センターの理事長である椎川忍氏をパネリストとするもので(コーディネーターは広井)、非常に示唆深い内容となった。西川区長からは、GAHを提唱するに至った経緯のほか、「不幸を減らす」ことが優先課題であることから「子どもの貧困」問題に率先して取り組んだこと、待機児童解消のため都市公園の中に保育園を設置できるように提案するなど幸福度指標は行政のタテワリを超えて政策を総合化する意味をもつことなどが述べられた。一方、椎川理事長からは、戦後の日本は人口増加や経済成長など本来は二次的指標であるものが究極目標になつてしまった傾向があるが、「幸福」はまさにそうした究極目標に該当するものであり、また幸福度指標の作成と一体に様々な調査や住民



グループワークの様子



フィールドワークで訪れた「荒川ころぼん体操」

ニーズの把握を行うことが重要との指摘がなされた。

続く講義②では、荒川区自治総合研究所の佐藤宏嗣研究員より、GAHについての具体的な内容や（それと両輪の関係にある）「地域力」との関わり、関連して進めている調査研究の概要等が丹念に説明された。これについて参加者からは幸福度指標策定に関する具体的な方法論などについて様々な質問が出されたが、こうした話題はその後のグループワーク①（5つのグループに分かれ、1日目で印象に残ったこと及び幸福度指標をめぐる意義と問題点について議論）でも引き継がれ、各グループからの報告では幸福度指標に関する様々な課題が指摘された（住民アンケート調査の方法、総合計画との関係、アウトプット⇨行政の施策自

体⇨ではなくアウトカム⇨その成果や住民満足度⇨を重視することの意義など）。

### フィールドワーク・グループワーク（2日目）…幸福度指標の意義と課題について議論

2日目は、まず3つのフィールドワークを行い（永久水利施設見学、「荒川ころぼん体操」見学、ジョイフル三の輪商店街見学）、都電荒川線で荒川区役所に移動し「あらかわ満点メニュー」の昼食をいただいた後、全体のまとめに関する最後のグループワーク②を行った。このグループワークでは、（1）この研修を通じての気づき（2）幸福度指標の意義と課題（3）私の考える幸福度指標または幸福政策（4）荒川区の取り組みを参考に地元地域に何を持ち帰り何を活かせるか、の4点について、前半では4つのグループに分かれ議論を行い、後半ではグループごとに参加者全員から報告をいただいた。特にここでの各参加者の報告が印象深く、「幸福度指標を契機にそもそもどういう地域をつくっていくかという大きな視点が得られる」「宗教などの視点も考慮する必要がある」「居場所づくりの重要性」等々、幸福度指標に関する多くの重要な点が提起された。

これらを踏まえ、最後に広井より、①幸福度指標はいわば最先端かつ未

開拓の取り組みであり試行錯誤をしながら進めていくことに意義がある②幸福度指標には大きく（a）理念的な意味（⇨地域の幸福や望ましい姿を住民同士で考えたり、行政が行う仕事に意味や哲学を与える）と（b）ツールとしての意味（⇨幸福度指標や関連の調査を通じ住民ニ

ズを把握したり、政策のプライオリティを見定めたりする）がある③今回の実践塾は幸福度指標に関して全国から人が集まり議論を行うというきわめてユニークかつ貴重な機会であり、このネットワークを今後大事にしていきたい、との総括を行った。

## 第2回地方創生実践塾（東京都荒川区）の概要

### 第1日目 7月23日（木）

講義① 「荒川区民総幸福度（GAH）の仕組み」  
-幸福度指標と地方創生 人口減少社会を希望に-  
主任講師：広井 良典氏

パネルディスカッション

コーディネーター：広井 良典氏  
パネリスト：西川 太一郎氏（荒川区長・特別区長会会長）  
：椎川 忍（一般財団法人 地域活性化センター理事長）

講義② 「GAH指標等について」

特別講師：佐藤 宏嗣氏（公益財団法人 荒川区自治総合研究所研究員）

グループワーク①

主任講師：広井 良典氏

### 第2日目 7月24日（金）

フィールドワーク①「永久水利施設」

特別講師：小林 弘幸氏（荒川区防災都市づくり部防災街づくり推進課 防災特区・水利担当課長）

フィールドワーク②「荒川ころぼん体操」

特別講師：荒川ころぼん体操リーダーの皆様

フィールドワーク③「ジョイフル三の輪商店街」

特別講師：古川 三喜雄氏（三の輪銀座商店街振興組合理事長）

グループワーク②

主任講師：広井 良典氏

グループワーク発表・総括

主任講師：広井 良典氏